



# 第4会場 ● 4F 大研修室

■司 会／古賤 智美 熊本県教育庁教育総務局社会教育課 社会教育主事  
野村 美穂 福岡県教育庁福岡教育事務所 主任社会教育主事

分科会の進め方 13:30~13:35

**1** 地域活性化に導入した「リードフォーアクション」の仕組みと手法  
～仲間と一緒に読書・対話・課題発見・解決～ 13:35~14:05

おもと 観元 真人(徳島県徳島市) 一般社団法人地域活性士会 理事・事務局長

「リードフォーアクション(行動するための読書会)」を導入した地域活性化の事例です。地域の魅力(地域資源)を仲間との読書を通じて発掘・発見し活用しています。さらに、地域課題を共有し、未来志向で発掘し解決しているのです。具体的には、地域活性化のアイデア発掘や商品開発及び観光地づくり等に効果を挙げています。参考にしたいのは、その内容、方法、形態です。活動の場は徳島県を中心に四国四県等で、広がりが期待されます。

**2** 地域みんなで防災アクティブラーニング～熊本地震の経験から学ぶ～ 14:10~14:40

徳永 伸介(熊本県(全域)) くまもとクロスロード研究会 代表

全国の学校や地域で楽しく防災を学ぶ学習ツールとして「クロスロード」(災害対応シュミレーションゲーム)が活用されています。私たちは、熊本地震から1年後に「くまもとクロスロード研究会」を立ち上げ、被災者の声を集めた「クロスロード熊本編」を作成しました。運営事務局やファシリテーターなどの人材育成と多様な県民が体験する機会を増やしなが、持続可能な組織づくりと機会づくりを図っている団体です。多世代の異質な人間が暮らす地域で、みんなが他者を認め合うクロスロード体験の機会から、生きる知識(防災力)を広める実践者へと変化していく。そんな防災生涯教育チーム(くまもとクロスロード研究会)の活動を紹介します。

ティータイム 14:40~15:05

**3** 世界遺産「勝連城」復活プロジェクト  
～560年前に滅んだ城を蘇らせる～ 15:05~15:35

まさしよ 牧門 司(沖縄県うるま市) 勝連城復活プロジェクト実行委員会委員長  
與那嶺 忠(沖縄県うるま市) 南原小学校校長

560年前に滅びた勝連城を復活させようと南原小学校の児童ら330人が、幅7m高さ6.5mの城が描かれた幕の色塗りに取り組みました。夜は城壁とともにライトアップを行いました。制作に5か月を要して、21日の展示期間中約16,000人の来場者がありました。この活動が映画化されて、エキストラとして児童と地域の大人たちが出演しました。この活動が地域の結束を強め、地域の活性化を大きく後押ししたことは間違いありません。

**4** まちづくりは〇〇〇! ～生き残りをかけたコミュニティの幕開け～ 15:40~16:10

橋崎 和弘(鳥取県鳥取市) NPO法人とうごう未来応援隊 代表理事

小学校の統廃合問題をきっかけに、東郷地区活性化に向けた機運が高まり、PTAが中心となって、平成26年に「NPO法人とうごう未来応援隊」が設立された。少子高齢化と人口減少が進行する中、子どもたちの未来を願い、地区内外の人を巻き込んでまちづくりに向けて活動をしている。毎年開催している「とうごう田植えまつり」では3年間で延べ600名以上の地区外の参加者を得て、東郷地区の魅力を発信している。またコミュニティスクール事業による校区外から東郷小学校への転入者受け入れや移住者の受け入れ、さらに国際交流事業では児童を中心にシンガポールとの継続的な関係構築に力を入れている。